



1. 理事会と評議員会をオンライン開催

8月20日に第30回理事会をZoomで開催しました。理事会のオンライン開催は前回(本年6月3日)に続き、2回目です。当日は、全国から29名の理事と3名の監事が出席。齋藤直美理事長が欠席のため、定款の規定に従い、出席理事の中から互選で、水野功副理事長が議長に選出されました。第1号～第8号の全ての議案につき、原案通り承認可決されました。

【第30回理事会の主な議案】

評議員後任候補者／理事候補者／2020年度事業報告／2020年度計算書類／2021年度収支予算書一部修正／2021年度専門委員選任 ほか

また、9月9日には第13回定時評議員会を同じくZoomで開催しました。昨年9月の定時評議員会は新型コロナウイルスの影響により初の書面決議となり、今回も緊急事態宣言下のため、評議員会としては初めてオンラインでの開催となりました。

当日は、全国の評議員29名のほか、常務理事会から役員8名が出席。評議員会開始前に15分

間、第4代よねやま親善大使の3人を評議員の皆さんにお披露目し、3人から一言ずつ自己紹介してもらいました。評議員会の冒頭では、昨年8月にご逝去された赤山武興評議員に全員で黙祷を捧げました。定款により、評議員会の議長は、出席評議員の中から互選で選ばれることになっており、第2840地区の田中久夫評議員が議長に選出されました。

田中議長の進行で、報告事項として、①理事会決議報告 ②内閣府立入検査報告 ③



職務執行の状況報告 ④2020年度事業報告が資料に基づき説明され、続いて理事会から上程された「後任評議員の選任」「理事の選任」「2020年度計算書類承認」など4議案が諮られ、全て原案通り承認可決されました。

2. コロナと闘う病院のために — マレーシア —

マレーシア米山学友会は今年度の社会貢献活動として、新型コロナウイルス感染拡大により病床が逼迫する病院への支援をスタートさせました。8-9月には、ペナン総合病院へ寝たきり患者用マットレス10点と、入院した子どもに付き添う親のための椅子10脚を寄贈。さらに9月13日には、クアラルンプール市内の病院へ可動式ベビーベッド10台を寄贈しました。これらの支援は、事前に病院へニーズをヒアリングし、不足した品物を送っているため、大変喜ばれています。また、今後は、新型コロナウイル



ス感染症により親を失った子どもへの支援も予定しているとのこと。さらに、同学友会会長の黄麗容さん(横浜泉RC)は、国際ロータリー第3300地区ガバナー補佐のウォン・ステファニー氏と会談し、米山学友会がロータリーと手を組んで、マレーシア国内でどのような貢献が可能かを模索しています。



3. まもなく米山月間資料が届きます

10月はいよいよ米山月間です。今年も米山月間用資料を全国の皆さまへお届けします。

毎年恒例の『豆辞典』は、米山記念奨学事業についての情報がほぼ網羅されている小冊子。会員数分お送りしますので、1人1冊お手元にお持ちください。豆辞典を使って米山奨学事業を説明するためのパワーポイントは、9月中旬に当会HPで公開します。そのほか「クラブ米山記念奨学委員長の手引き（寄付マニュアル合併）」「2020年度事業報告書」「2020年度決算報告」を送付します。

追加資料のお申し込みは、同封の「追加資料申込書」に記載の上、お送りください。

9月22日に
全国発送



4. 寄付金速報 — 10月の米山月間に向けて —

8月までの寄付金は、前年同期と比べて6.6%減（普通寄付金:1.0%減、特別寄付金:16.3%減）、約2,050万円の減少となりました。当会は半期に一度、地区から会員数を報告いただいておりますが、昨年7月1日時点では85,237人、今年度は83,395人と、約1,800人減少しています。このように厳しい状況ではありますが、多くの方々から引き続きご支援をいただき深

く感謝申し上げます。

10月は米山月間です。当財団は内閣府より「公益財団法人」の認定を受けているため、当奨学会への寄付金には所得税、法人税の税制優遇が受けられます。相続税も非課税となります。今年度の米山月間も、何卒皆さまからのご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

5. タイ米山学友会が農村の小学校を支援

タイ米山学友会は8月17日、首都バンコクから450kmほど離れたタイ東部のコーンケン県で、小学生81人へ緊急支援セットを寄贈しました。

今回は、同県在住の米山学友、アイラダー・カムピラーさん(2017-18/東京本郷RC)から、コロナ禍の影響を受けている地元の小学生たちやその家族を支援したいとの提案を受け、保



存食やマスク、アルコールジェル、家庭薬などが入った支援セットを準備。タイ米山学友や、本プロジェクトに賛同する日本のロータリアンからの応援メッセージを添えて、アイラダーさん自ら小学生たちに手渡しました。アイラダーさんは「奨学期間が終わってからも、“入りて学び出でて奉仕せよ”の言葉がいつも心に残っています。今回の活動を学友会の皆さんや日本のロータリアンに支えていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです」と、話しました。ワシン会長は今回の活動を受け、「今後も、地方に住む学友から実施したいプロジェクトを募集し、その活動を学友会として応援していきたい」と、語っています。

